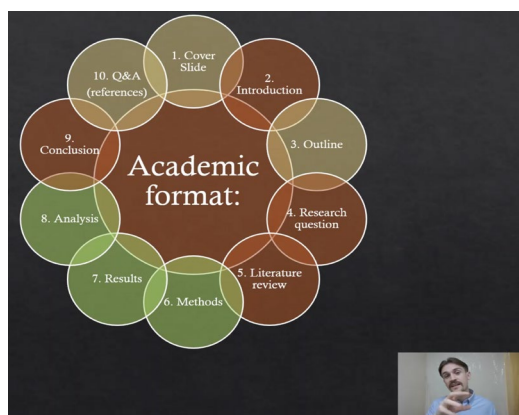


三重大学生のための 英語プレゼンテーション 指導動画を製作・配信しました！

三重大学生が英語でアカデミック・プレゼンテーションをする際に参考となる指導動画を製作しました(約60分)。元三重大学教育学部非常勤講師のギボン先生による本講義では、プレゼンテーションの基本的な構成、スライド画面のデザイン、そして話し方についての詳しい解説をしていただいています。本講義の動画は、moodleの地域人材教育開発機構ページに掲載され、三重大学の学生・教職員による視聴が可能となっています。(グローバル人材教育開発部門 福岡昌子・松岡知津子・正路真一)



(講義動画)

津市出身の元Jリーガー林一章さん 講演会「A Ball is Rolling 何処へ でも行ける」を開催しました！

グローバル人材教育開発部門の主催で、三重県津市出身の元Jリーガー林一章さんをお招きし、1月12～14日に講演会を開催しました(録画配信)。大学時代に単身ブラジルに渡ってサッカー修行をした経験、現在行なっているシリア難民支援活動など、豊富な国際経験から得られた気づきなどについてお話をいただきました。(グローバル人材教育開発部門 福岡昌子・松岡知津子・正路真一)



(講演動画)

桑田真似Web TALK「海外体験記 x TOEIC対策勉強法」を開催しました！

グローバル人材教育開発部門の主催で、2020年12月15～17日に、桑田真似Web TALK「海外体験記 x TOEIC対策勉強法」を開催(録画配信)しました。桑田さんは元読売ジャイアンツの桑田真澄投手のモノマネ芸人でありながら、TOEIC 990点(満点)を取得され、英語講師・翻訳家としても活動されています。本トークセッションでは、教育学部の学部生6名も収録に参加し、世界50カ国を周遊した体験談や TOEICで高得点を取るための具体的な勉強法などをお話をいただきました。(グローバル人材教育開発部門 福岡昌子・松岡知津子・正路真一)



(講演会の様子)

コロナ禍で見えてきた新しいインターンシップ2020

昨年夏、原宿に「まいったな2020」という看板が出現し話題になりました。あるファッションブランドの広告だそうです、2020年は、コロナ禍でどれほど多くの人々が「まいったな」と呟いたことでしょうか。

インターンシップ卒業要件化を進める私たちも当初は相当まいっていました。しかしながら、2020年度を振り返ってみると、苦境の中だからこそその工夫や新たな発見があり、コロナ禍以前に大きく立ちはだかっていた数々の課題の解決策が見つかり飛躍的に前進した1年でもありました。

2019年は、事前研修会に1,000人を超える学生が参加し1年後には卒業要件化を迎える学生が参加するため参加人数は倍以上に膨れ上がることが予想され、事前研修会の見直しを迫られていました。そんな中、コロナ禍で対面による事前研修会が実施できなくなり、急遽moodleによるe-learning形式への変更を余儀なくされました。ところがこのことが様々な問題点を解決してくれる最善の方法であることに私たちはすぐに気づくことになりました。私たち運営側からすると、事前研修会の会場を確保する必要もなく、学生が押し寄せて大混雑したインターンシップの申請もmoodle上で提出することにより解決することができました。また、学生側からも、事前研修会用の動画を好きな時に何回でも視聴することができ、理解が深まったという感想が多く寄せられました。

インターンシップ研修自体も、対面での実施が難しくなり、本学としてリモート型インターンシップを推奨し、受け入れ先である企業・団体には様々な工夫をしていただきながら何とか実施できました。終わってみれば、完全リモート型や、対面とリモート型の両方を取り入れたハイブリット型等、工夫次第で様々なやり方が可能であることも実証できました。

社会全体を見渡しても今まで困難だと考えていた課題解決や、様々な言い訳をしながら先延ばしにしてきた新しい取り組みをコロナ禍の苦境が一気に押し進めてくれたような気がします。この2020年がなければ、私たちは、まだ新しい時代の扉の前で足踏みをしていたことでしょうか。いつの時代でも大きな困難と犠牲を払わなければ、社会や自分たちの意識を変えていくことはできないのかもしれません。



(リモート型インターンシップの様子)
(ヤマモリ株式会社)

冒頭でご紹介した「まいったな2020」には「まいったな、でもがんばろう!」というポジティブな思いが込められていたそうです。今年もまだまだ予断を許さない状況ではありますが、何とかこの苦境をチャンスと捉えて前進し、何年、何十年後かに振り返った時「まいったな2020、でもがんばったな! 2021」と言える1年にしていきたいと思います。(インターンシップ・キャリア教育開発部門 長岡みか)

「島サミットZOOM TALK」を開催しました!

三重県青年国際交流機構(三重県IYEO)とグローバル人材教育開発部門の共催で、「島サミットZOOM TALK」を開催しました(2020年12月から月例開催)。1997年以来3年毎に日本と太平洋島嶼国が参加して行われる島サミット(PALM)が、2021年は三重県志摩市で開かれる予定です。その2021年島サミットに先駆けて行われた本ZOOM TALKでは、島サミット参加国であるパプアニューギニア、ツバル、ソロモン諸島出身の三重大学留学生による母国についての紹介、そして聴講者との英語での活発な質疑応答が行われました。

(グローバル人材教育開発部門 福岡昌子・松岡知津子・正路真一)



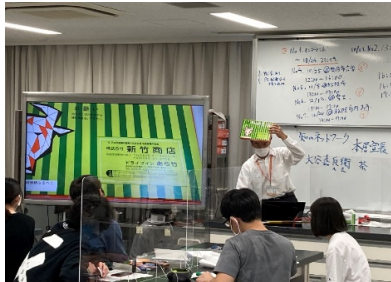
(参加者全員で記念撮影)

三重創生ファンタジスタオリジナル科目「食と観光実践」レポート

三重創生ファンタジスタ・オリジナル科目「食と観光実践」(県内の複数の高等教育機関が合同で開設)では、松阪市内を対象として現地学習を含めた計7回(オンデマンド収録計2回含)の日程で実施しました。四日市大学11名、皇學館大学5名の計16名が参加し(三重大学・鈴鹿大学は教員のみ参加)、各大学の教員とともに松阪市の観光の現状について理解を深めました。

今回のテーマは“松阪市の食と観光をPRするプランを立案(5W1Hの明確化)する”、です。

初回は「三重について知る」(MieMU見学)をテーマにして学芸員の太田先生によるレクチャーと館内見学、そしてグループワークが行われました。その後、グループディスカッション、松阪市内を实际歩いて情報収集を行っていました。



県内に現存する唯一の駅「牛肉弁当」などについてのMieMU学芸員の太田先生によるレクチャーは学生一同驚くばかり



フィールドワークをした結果を互いに情報交換し、確認しています。食べ歩きマップを作成予定のこのグループは実際商品を購入し、味を確かめていました。



フォトゲイニングと観光を掛け合わせたイベント企画を立案。紙媒体とパワーポイントを併用したプレゼンで工夫していました。

最終回では発表会場として清光寺さまの本堂をお借りし、食と観光プランを各教員、市観光協会職員らにPRしました。中日新聞松阪支社(12月23日付掲載)、夕刊三重(11月9日、12月21日付掲載)の記者も同席しました。発表後、各教員、松阪市観光協会、全学生が各グループの発表を評価し、上位を決めました。

来年も「食と観光実践」は、松阪市をフィールドにして食と観光に資する計画を考えていきます。(地域創発部門 志垣智子)

CeMDSも成長する有機体である

2020年4月6日、春風舞う麗かな日に、と書き出したいところですが、実際には参列者の御髪も逆立つ強風の日に数理・データサイエンス館(CeMDSセムズ)の開館記念式典は挙行されました。気付けば開館から早1年が経とうとしています。開館式典の直後からCOVID-19感染拡大防止のため約7ヶ月間休館していましたが、12月から制限付きで開館しています。

CeMDSは、ICT教育や数理・データサイエンス教育の発展に寄与し、また地域の関係機関や企業との教育研究拠点となり地域創生に貢献することを目的として設立された施設です。現在は学内者のみ利用可能ですが、状況を見ながらゆくゆくは地域に開いた場へと拡充していく予定です。

今年度は本格的な運用前の準備の年と位置付け、オンラインで学生の相談に対応するCeMDSサポートデスクを整備し、それと並行してCeMDSの環境整備を進めてきました。特に3階には撮影・編集ができるスタジオや、ドローン操縦スペース、VR体験スペースが新たに加わり、様変わりしました。施設・設備の整備後の次なる目標は、CeMDSの活用促進です。CeMDSにある機材や空間を活用して、どんなワクワクしたことができるのかを提案していけたらと思案しています。

ところで冒頭のタイトルですが、「図書館学の父」と呼ばれるインド出身のS.R.ランガナタンが提唱した「図書館学の五法則」の第5法則「図書館は成長する有機体である」を文字ったものです。ランガナタンは“変化こそが生きることの不可欠な原則であり、図書館もまた同様”(竹内愼『図書館の歩む道:ランガナタン博士の五法則に学ぶ』日本図書館協会、2010、p.247.)と述べているのですが、これは図書館に限ったことではなく、CeMDSにもそのまま当てはまるのではないかと考えます。現時点の形態に固執するのではなく、新しいものの良いものを積極的に取り入れながら常に変化していく有機体としてCeMDSが成長していくことを切に願っています。ぜひ一度成長し続けるCeMDSへお越しください！お待ちしております。(eL部門:和気尚美)



(CeMDSメイカースペースの様子)

本連載「ステークホルダーから見た三重大学」では、高校生調査の結果からみた三重大学の現状について、第3回、第4回の2回に分けてお伝えしていきます。第3回の本稿では、高校生の三重大学の認知度、興味・関心度を他大学と比較しながら明らかにします。調査は、令和2(2020)年3月、4年制大学への進学を希望する全国の高校生413名を対象にWebで実施しました。(回答者の属性は、図1～図2を参照)

今回お伝えする内容は、質問項目「東海地区の国立4大学について、どのくらい知っていますか」と、「東海地区の国立4大学について、どのくらい興味・関心がありますか」に関する調査結果です。「東海地区の国立4大学について、どのくらい知っていますか」という全国での認知度について5件法(非常によく知っている、かなり知っている、少し知っている、聞いたことはある、全く知らない)で大学別に確認した結果、三重大学の認知度は中部と近畿以外では低い結果でした。(表1)

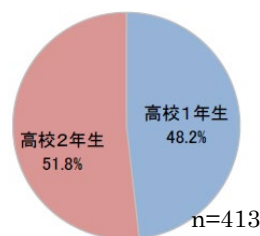


図1 属性・学年(調査当時)

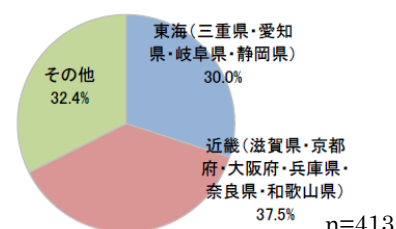


図2 属性・地域

表1 認知度比較(回答者の地域別)

	三重大学	X大学	Y大学	Z大学
北海道	0.0%	0.7%	0.2%	0.2%
東北地方	0.5%	1.5%	0.5%	1.0%
関東地方	1.9%	5.1%	1.9%	2.9%
中部地方	12.8%	26.2%	11.9%	15.0%
近畿地方	7.3%	13.8%	4.6%	6.5%
中国地方	0.0%	0.7%	0.2%	0.0%
四国地方	0.0%	1.0%	0.2%	0.5%
九州地方	0.0%	0.7%	0.2%	0.7%

「1.非常によく知っている」+「2.かなり知っている」+「3.少し知っている」の合計を回答者総数で除す=認知度(%)
各地域の最高比率をブルー、最低比率をピンクでアミカケ

表2 興味・関心度比較(回答者の地域別)

	三重大学	X大学	Y大学	Z大学
北海道	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%
東北地方	0.0%	1.2%	0.5%	1.0%
関東地方	0.5%	2.4%	0.7%	1.5%
中部地方	6.5%	15.7%	7.5%	7.5%
近畿地方	4.8%	9.2%	2.9%	4.6%
中国地方	0.2%	1.2%	0.0%	0.2%
四国地方	0.2%	1.0%	0.5%	0.7%
九州地方	0.0%	0.5%	0.2%	0.0%

「1.非常に興味・関心がある」+「2.少し興味・関心がある」の合計を回答者総数で除す=興味・関心度(%)
各地域の最高比率をブルー、最低比率をピンクでアミカケ

「東海地区の国立4大学について、どのくらい興味・関心がありますか」という全国での興味・関心度を5件法(非常に興味関心がある、少し興味・関心があるかなり知っている、どちらともいえない、あまり興味・関心がない、全く興味・関心がない)で大学別に確認した結果、三重大学への興味・関心度は全国では中部地域が最も高いですが、中部地域の4大学で比較(赤枠)すると最も低くなっています。(表2)全国の認知度と興味・関心度の傾向は、4大学のうち、X大学が最も高く、三重大学は(Y、Z大学と同様に)X大学の約半分程度の認知度、興味・関心度でした。(図3～図6、Y、Z大学の図は省略)

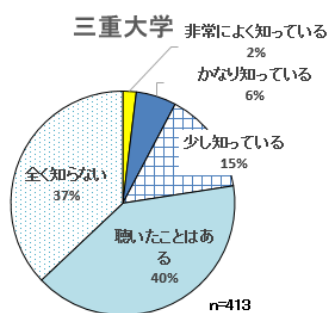


図3 三重大学の認知度(全国)

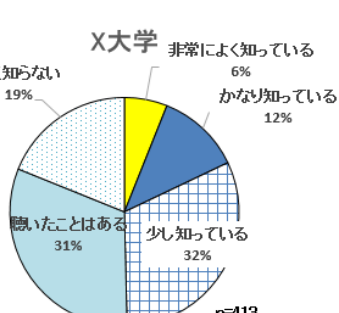


図4 X大学の認知度(全国)

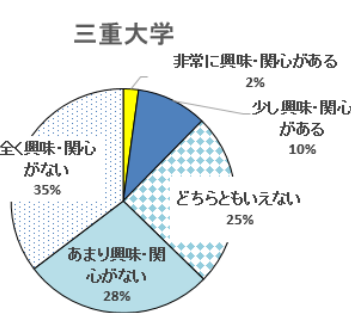


図5 三重大学の興味・関心度(全国)

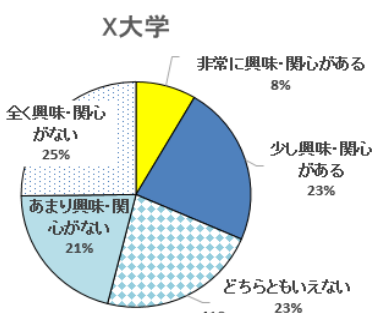


図6 X大学の興味・関心度(全国)

今回は、高校生の認知度、興味・関心度をお伝えしてきましたが、次回は東海地区の国立4大学について高校生がどのようなイメージを持っているかについて明らかにしていく予定です。(エンrollment・マネジメント部門 宮下伊吉)

「学校」から卒業します

3月31日、三重大大学を退職いたします。長い間、能無しのトップを支え続けていただき感謝に耐えません。本当にありがとうございました。振り返ると、7歳のみぎり、小学校に入学してこの方、学校という組織・機関から離れたことがありませんでした。児童・生徒そして学生として、後には教員として「学校」という特殊な閉じた空間に生息し続けてきました。認識にしても、感覚にしても「学校的」なものが染み込んでしまっているのだと思います。4月からは、少しずつデトックスを図り、純なわたしを取り戻すべく穏やかに、ゆったりと過ごしたいものだと思います。

中目・中計の第3期、機能強化の司令塔としての地域人材教育開発機構を立ち上げ、教育担当理事・機構長として教育改革の大航海の舵取りを委ねられたわけですが、三重大大学丸は予想を超える大きなうねりに巻き込まれました。幸い、優秀なクルーの皆さんのおかげで難破や座礁することなく航行することができました。

第4期に向けてさらなる航海が続きますが、船長以下のスタッフが刷新されますので、しっかりした羅針盤のもと的確で安定した航路を進んでいただけるのではないかと期待しております。

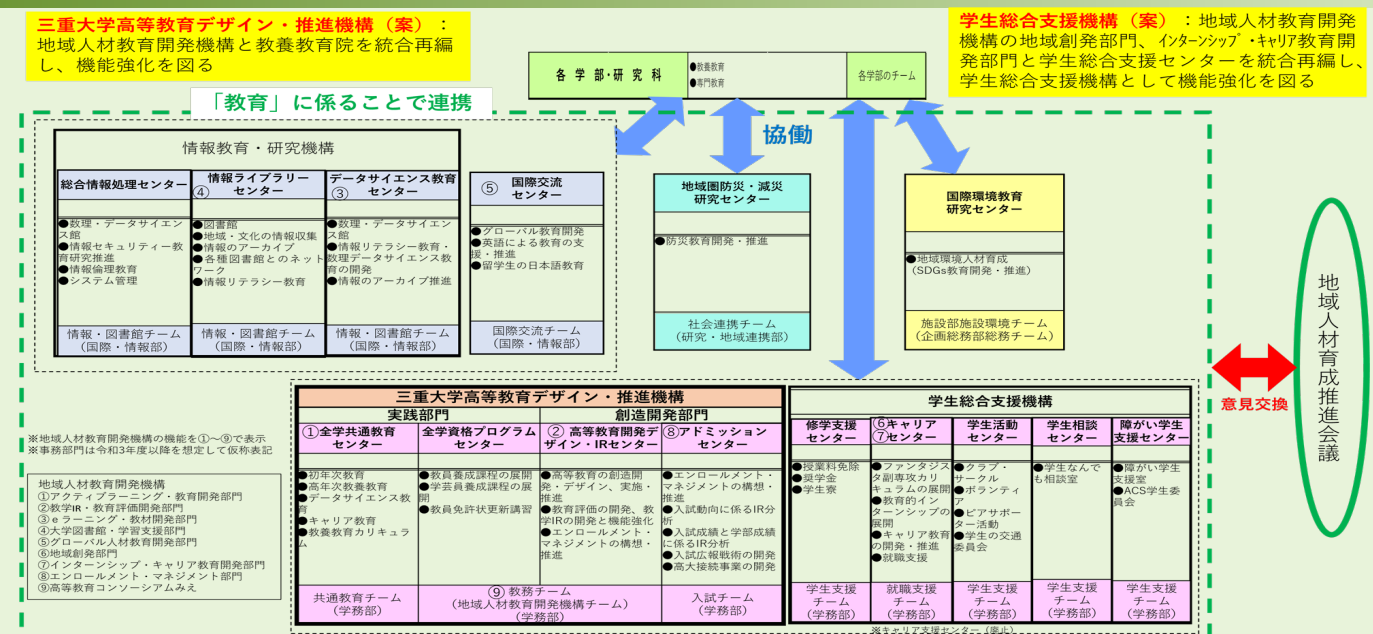
いかと期待しております。

「お～いお茶」「コーヒーよろしく」と事務室を訪ねる度に凝りもせず身勝手な言動と振舞の数々を繰り返してきましたが、寂しがり屋の老人のわがままとして温かく優しく対応していただきました。こうしたことのすべてにただただ感謝するばかりです。わたしの世代は「巨人・大鵬・卵焼き」大好き世代。お別れは、ミスタープロ野球の長嶋の引退セレモニーでの言葉とさせていただきます。

「きょうわたしは退任しますので、三重大大学は永遠に不滅です」炊飯器・・・じゃあ！

機構長 理事(教育担当)・副学長 山本 俊彦

当機構の組織再編について（令和3年4月より）



編集後記

機構ニューズレターNo.56をお届けします。本号は、「地域人材教育開発機構」としてリリースする最後の号となります。新しく発足する「三重大大学高等教育デザイン・推進機構」より、引き続き本学の高等教育に関する情報をお届けする予定です。

お忙しい中、ご寄稿、ご協力頂きました皆様には、この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。（地域人材教育開発機構 黄文哲、地域人材教育開発機構チーム 川瀬奈津美）

NEWS LETTER vol.56 2021年03月 発行

国立大学法人三重大大学 地域人材教育開発機構
〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577
TEL: 059-231-5615 FAX: 059-231-2354
E-MAIL: chiikijinza@ab.mie-u.ac.jp
http://www.dhier.mie-u.ac.jp/